

7 - 5 日本周辺の地磁気全磁力異常分布

Geomagnetic Total-Intensity Anomaly Distribution around Japan

海上保安庁水路部
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

昭和 42 年以來水路部が実施してきた大陸棚の海の基本図測量と地震予知計画による測量の成果から、南西諸島方面を除く日本周辺の地磁気全磁力異常分布をまとめた。

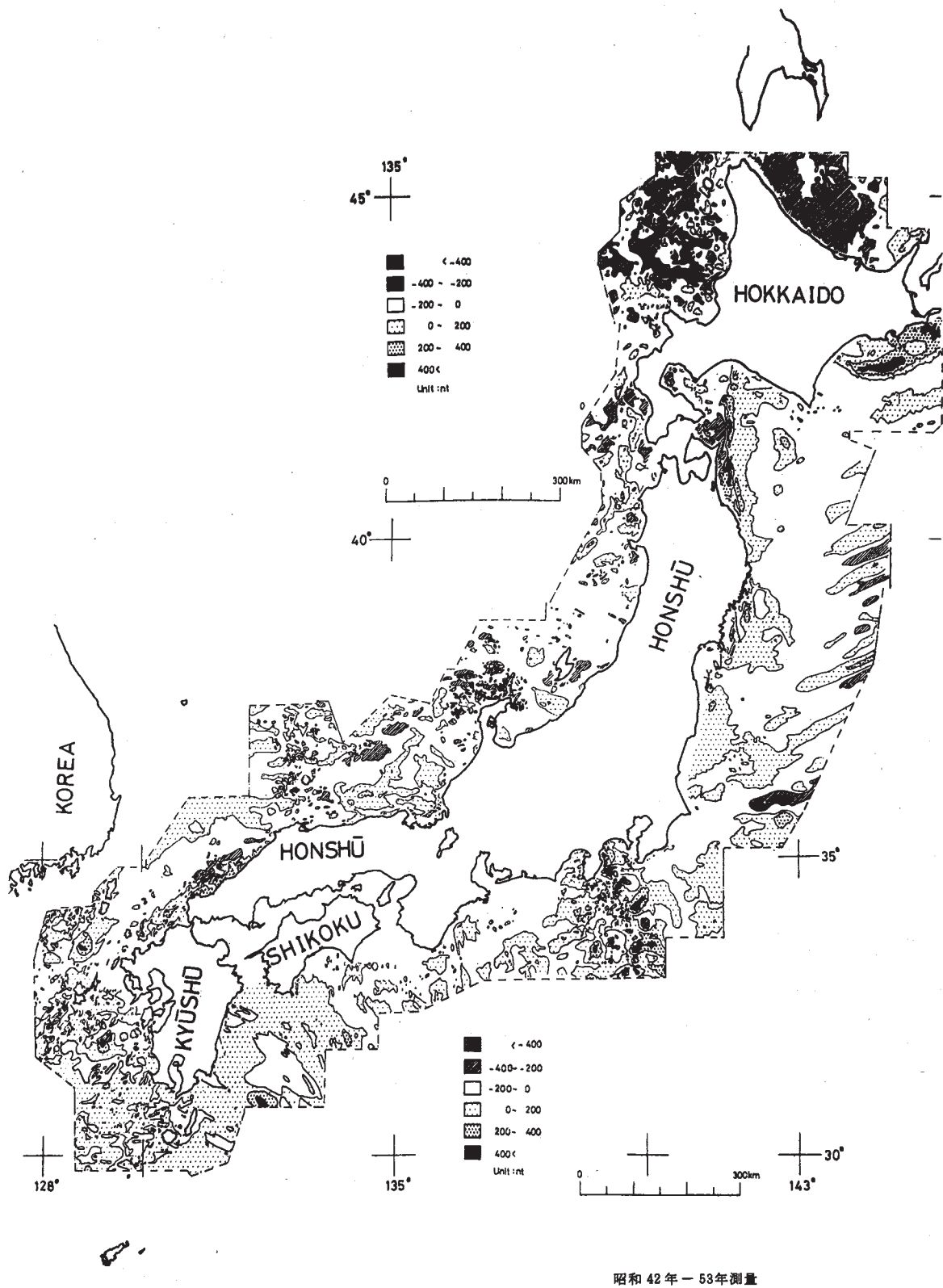
測量船は水路部の「昭洋」及び「明洋」、測線は平均間隔 3.7 km、全長約 27 万 9 千 km で、プロトン磁力計を使用した。

標準磁場は I G R F 1965.0 に年差補正を施したものとし、¹⁾得られた異常値を 200nT 毎に区分して図示したものである。日本海および東シナ海側では分布はきわめて複雑であり、東海、四国沖と九州東方では平坦である。その他の顕著なものは、日本海溝付近の海洋性縞状異常、根室～釧路沖、本州北部東岸、島根半島～北九州沖～五島列島沿い等の正異常帯、能登半島付近および伊豆諸島付近の正負の強く複雑な異常帯等である。

(大島章一, 登崎隆志, 小野寺健英)

参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：相模湾付近の地磁気全磁力異常分布，連絡会報，22（1979），79 - 82.



第1図 日本周辺の地磁気全磁力異常分布図

Fig. 1 Geomagnetic total-intensity anomaly distribution around Japan. Unit nT.